2005
No. 2
Nov.

メディカルネットワーク

発 行 東京女子医科大学東医療センター　〒116-8567　東京都荒川区西尾久2-1-10
電話03-3810-1111　ＦＡＸ03-3894-0282　http：//www.twmu.ac.jp/DNH/index.html.

東医療センターへ病院名改称のご挨拶

病院長　井上　和彦

１０月１日に東京女子医科大学附属第二病院は東京女子医科大学東医療センターに改称致しました。ご承知頂けると幸甚であります。

第二病院の名称は１９３６年４月に東京女子医学専門学校尾久病院が東京女子医学専門学校第二病院と改称されたのが始まりであり、以来約７０年の長い間東京都東北部の地域の皆様に親しまれてまいりました。

しかし、第二病院に外来棟が新築され、東病棟の新築が計画され始めた頃より、〝これから発展していく病院にとって第二病院は適当ではない。他の名称を考えたらどうか？〞という意見が強くなってきました。

因みに名称変更に関しましては第二病院の部長会において過去２回議題に出ておりました。２回目の平成１０年４月の部長会では１回目の議論を参考にして名称に関するアンケートなどをとり検討しましたが、統一的見解が得られず継続審議となりました。

名称が変更されたからといって、職員のモチベーションが変化し、より良い、より安全な医療が簡単に実現されると、短絡的には考えません。



しかし、〝心はかたちを求め、かたちは心をすすめる〞とも考えられます。名称が全てではありませんが、そこで働く職員にとって、心の拠り所となるのも事実であります。病院長の諮問機関である運営企画会議より第二病院の名称変更に関する提案が平成１５年１０月８日の第二病院部長会にあり、満場一致で変更が決まりました。

平成１５年１２月９日に広報図書委員会へ第二病院の新名称候補選定の諮問が行われ、一般公募し応募総数３９１の中から新名称の候補５件が答申されました。

その後、大学と検討を重ねまして平成１７年３月の理事会において、１０月１日からの東医療センターに名称変更が承認されました。

この新名称〝東医療センター〞の意義は今後の病院が〝より良い、より安全な医療〞を患者様にどのように提供するかにかかっています。

全力で頑張ります、よろしくご支援の程お願い致します。



放射線科紹介（画像診断棟，ＭＲＩ，ＣＴ）

放射線科 助教授　上野　恵子



おかげ様で、昭和４２年、総合病院開設時にスタートした放射線科（２号館）より，本年５月に画像診断棟に移設してから半年が経とうとしています。

移設後の放射線科は、１号館と東病棟の間に位置しており、患者様のことを第一に考えた設備・最新機器を備えていることが大きな特徴です。

まず、画像診断棟は全面的にバリアフリーと最新の免震構造を採用いたしました。そのため、段差のないフロア、床面近くまで下がる撮影台、ドアの開閉に至るまで、四肢の不自由な患者様にも配慮した造りになっております。

そして、待合室も待つことへのストレスが少しでも緩和されるような空間を目指しました。以前に比べて、多目的用も含めまして、４つのトイレを増設し、２つの洗面台も配置いたしました。それだけではなく、空間と色彩、やわらかな自然光が入るよう天窓を設置し、間接照明を取り入れるなど、患者様にとってより過ごしやすい空間となっております。

また移設したことにより、以前に比べ効率的かつ患者様に優しい検査が実施できるようになりました。

検査設備も改善され、撮影室は診断室を含むと８室あり、乳房歯科撮影室、骨塩定量測定室、一般撮影室３室、多目的透視室、泌尿器婦人科用透視室に分かれており、更衣室も１１室と多く、撮影効率の向上、待ち時間の短縮に繋がっております。

さらに全室に最新鋭のＸ線デジタル撮影システムを導入したことにより、撮影後３秒で画像確認ができ、再撮影も皆無に近く、作業効率も以前に比べると隔世の感がございます。



画像診断棟受付

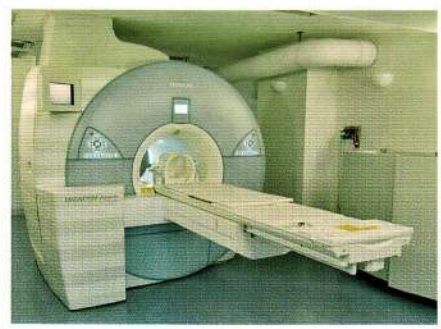
また、従来の撮影より被曝線量が半分以下と大幅に軽減され、患者様にとって優しい検査の実施が可能となりました。

加えて、ＭＲＩも４月よりシーメンス社の最新鋭機が稼働をはじめており、非常に鮮鋭な画質が得られると相当の評価をいただいているだけでなく、撮像時間も短縮され患者様の負担が軽減いたしました。

その他にも、乳房撮影室におきましては、乳房撮影認定技師を中心に画質の検討を重ね、診断の向上を目指しております。ＣＴ室は、一昨年よりＧＥ社製１６列マルチスライスＣＴが稼働しており放射線科の中心的存在として活躍しております。さらに来年には、もう一台高性能ＣＴ装置が導入される予定で、地域の中核病院としての重積を担える十分な体制が整うと思われます。

今回の画像診断装置導入にあたり、すべての機器のデジタル化が完了し、適宜モニターによる画像の配信を行い、担当医、患者様からはわかり易くなったとご好評をいただいております。

以上が今回の移設により、改善された点でございます。今後とも、放射線科医、放射線技師、看護師、事務員一同、地域医療に貢献できるよう尽力していく所存でございますので、宜しくお願いいたします。



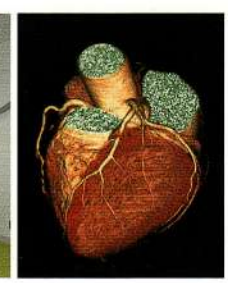
ＭＲＩ装置



脊椎ＭＲＩ画像



デジタル撮影システムとキリンを模した回診用撮影装置



心臓ＣＴ３Ｄ画像

救命救急センターの紹介、および一次・二次救急医療体制について

教授・救命救急センター長　中川　隆雄



東京女子医科大学東医療センター救命救急センターは、荒川区、足立区を中心とした約１００万の都民を対象に、主として三次救急医療を提供する施設として1999年に開設された、都内でもっとも新しい救命救急センターの一つです。当救命救急センターでは、センタースタッフがまず最初にあらゆる重症救急患者の診療にあたり、院内のすべての科の支援を得ることにより、大学病院に相応しい高度救命救急医療が昼夜を問わず実践され、チームワークと高度医療が融合した極めて合理的な救命救急センターであります。

当救命救急センターは、専用ＩＣＵ２０床と後方病床１０床を有しております。年間救急患者は１１００人前後で、ほぼすべて東京消防庁との専用ホットラインを介して救急搬送される三次救急患者です。患者の内訳は、外傷２５％、脳血管疾患２０％、心臓血管疾患２０％、呼吸器疾患１０％消化器疾患１０％、その他中毒、熱傷、代謝異常等あらゆる重症救急疾患が含まれ、来院時心肺停止（CPA）患者は３０％を占めています。年間手術件数は１３０件前後で、外傷、急性腹症、消化管出血などの緊急手術のほか、ＣＰＡの開胸心マッサージ、気管切開などが日常的に行われています。ＣＰＡ、心原性ショックなどに対する経皮的心肺補助（ＰＣＰＳ）や各種急性血液浄化法は年間２００件以上行われ、救命に貢献しています。

現在のセンタースタッフ医師数は１０名で、うち救急指導医が３名、救急認定医が６名、外科指導医３名、外科認定医６名、内科専門医２名、内視鏡専門医３名、胸部外科認定医１名などとなっており、この他に研修医が常時６～７名診療に加わっています。

当救命救急センターは、地域の皆様の救急医療の最後の砦としていつでも最高の医療を提供できるよう、日頃から切磋琢磨しております。御支援をよろしくお願いいたします。

当院の一次・二次救急医療体制は、院内全科が分担して行っていますが、現時点でスタッフの少ないいくつかの科は２４時間体制が困難で御迷惑をおかけしていますが、大学病院の責務と考え体制の整備に努めていますので、今後を見守っていただきますとともに、こちらも御支援をよろしくお願いいたします。



救命救急センター

東医療センターにおける小児一次・二次救急医療体制

小児科 教授　杉原　茂孝



荒川・足立・葛飾３区の１５歳未満人口は少子化に伴い減少しておりますが、当院の小児科時間外診療来院患者数は増加しています。平成１５年の年間来院患者数は、約１万２千人ですが、これは８年前に比し約２倍に増加しています。時間外患者数が急増している理由として、核家族化による相談する家族の減少、育児不安の増強、夜間でもすぐに検査や処置が受けられる大病院志向、などがあげられます。

当院の小児科時間外診療は、１日３～４名（うち研修医が１～２名）で担当しています。来院患者数が非常に多いため、当直医は夕食をとる時間もなく働き続けたり、夜間一睡もできないということもあります。当科は女性医師が圧倒的に多いことが特徴といえます。妊娠、出産、育児など様々な理由により休暇をとることが避けられず、当直医の十分な確保が難しいという問題を抱えています。

院内の小児科医だけで時間外診療を担当するには限界があるとして、平成１４年から「地域連携小児平日夜間診療」体制が始まりました。小児科開業の６名の先生方が、月１回ずつ当院一・二次救急外来で、平日の夜７時から１０時までの３時間、診療を担当して下さっています。このシステムの導入により院内の小児科医の負担が少しでも軽減されたことは感謝にたえません。加えて、研修医が経験豊富な先生方の診療を見学することで貴重な臨床研修の機会となっています。

地域の小児救急医療は、一私立大学病院単独では、とても担えるものではないと思われます。地域医師会を中心とした、多くの医療関係者と行政担当者のコンセンサスが得られて始めて確立されていくものです。地域医師会の先生方のさらなるご理解とご協力のもとに、この地域の小児救急医療体制が確立されることを切に望むものであります。

文献：大野菜穂子、金子芳、伊藤けい子、杉原茂孝.
都市部における地域連携小児平日夜間診療体制、
日本医師会雑誌、１３４：８１３-８１５、２００５

第６回第二病院フォーラム開催される

７月２日（土）午後３時から、東京ドームホテルに於いて、第６回第二病院フォーラムが開催された。

まず、医療安全の観点から本学の顧問弁護士である松井小川法律特許事務所の小川修弁護士より「事例からみた医療安全について」と題して、実例を挙げ、現代の医療に於いて医師に求められる注意義務・説明責任・癌の告知・安楽死等を法的な解釈について判例を挙げ講演された。

次に、シンポジウム「院内感染とその対策について」と題して、５診療科１部署より各科が取り組んでいる感染対策の現状、感染症に関する最新のトピックスなどが紹介された。

講演、シンポジウム終了後は、荒川・足立・その他の医師会・荒川区保健所の先生方と当院職員との親睦、情報交換（ご質問・ご指導・ご意見・苦情……）が行われた。尚、次回から「東京女子医科大学東医療センターフォーラム」となります。

今後も近隣の先生方との医療連携の推進を願って、ご参加をお願い申し上げます。　（地域連携室　古賀）

地域連携室に関するお問い合わせ先

室　　長　　小児科教授　杉原　茂孝　　担当者　古賀三枝子・佐藤さみ子

代表電話　　０３−３８１０−１１１２(ダイヤルイン)　内線４４５１　　ＦＡＸ　０３−３８９３−０７７２

※ 当院専用の診療情報提供書（紹介状）用紙をお送りさせていただいております。

※ ＦＡＸにて診療申込受付が出来ます。

※ インターネットからダウンロード出来ます。

http：//www.twmu.ac.jp/DNH/annai/gairai/dl/sinryoumousikomi.pdf

交通のご案内・病院案内図・病棟案内図

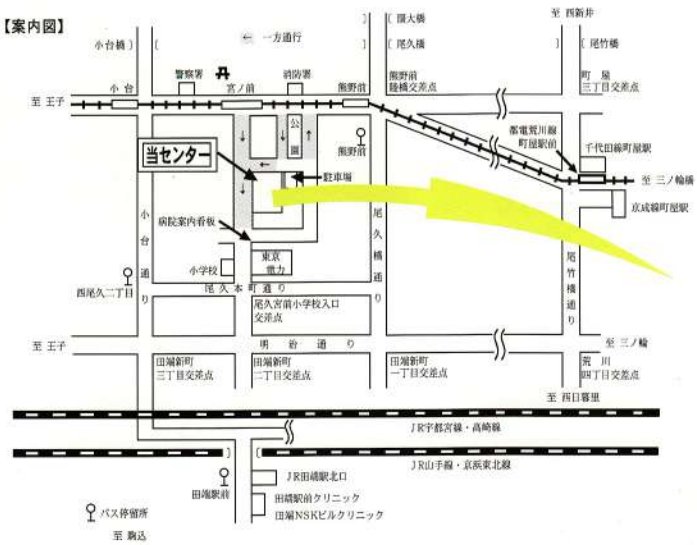
【交　通】

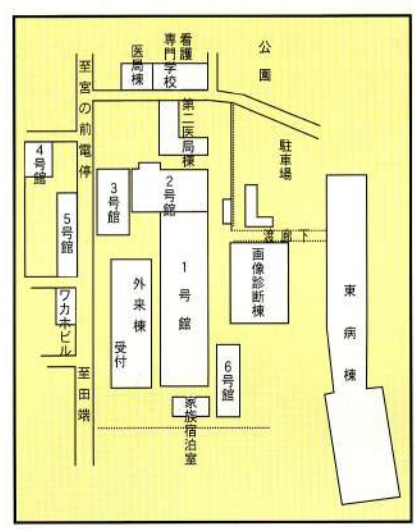
●都電（荒川線）
「宮ノ前」
下車徒歩約３分

●ＪＲ田端駅北口
タクシー約５分
徒歩約１５分

●都バス
ＪＲ田端駅北口下車
荒川土手行
「西尾久二丁目」下車
徒歩約５分

【案内図】





お知らせ

第７回「東京女子医科大学東医療センターフォーラム」

日時：平成１８年１月２８日(土)午後３時より(予定)
場所：東京ドームホテル　文京区後楽１−３−６１
　　ＴＥＬ０３−５８０５−２１１１

お問い合わせ先：地域連携室 内線４４５１又は
　　業務管理課 内線４４３３
　　詳細はホームページに掲載予定

編集後記

いつの間にか、どこからともなく匂い香りの金木犀が秋を連れて来ていよいよ紅葉の季節となりました。

先々月のニューオリンズの大洪水のあとの、パキスタン北東部大地震(中でも山岳地のカシミール地方は今でも紛争地帯とか）被災者は「すべて失い、もう終り」と言うが、一人でも多くの救助、一日も早い復興と平和を祈るのみです。

１０月１日に東京女子医科大学東医療センターに改称致しました。

また、当センターは東京都より地域災害拠点中核病院に認定されており、災害が発生した際は、迅速かつ適切な医療活動の使命があります。

近隣の皆様、地域の医療機関様のご協力をこれまでと同様お願い申し上げます。

次回の発行は平成１８年５月を予定しております。（地域連携室　古賀）